



特 別  
^5  
6590  
167



^5  
6590  
167

三寶堂

永源堂

野

歌

新  
奇  
社  
山  
源  
玩  
松

新  
奇  
社  
山  
源  
玩  
松

社

頭

松



神風や五十鈴の川  
松の百枝を巧路ふさぎ波

鹿崎と急のこ日本  
舟の御まきや一本乃松

神風のこもさき  
まじりあはれも言所の松

香那の歌あし上下乃  
杉月もうさきかものねいす

那垣うらさきーさる姫小松  
美のこひありなるとやまをん

引あめて流る子の口せー姫小松  
つゆとは年一あさめ神下地

石の上ぬる西空の杉ひきつた  
流るゆのさるるさるるさるる

月星と松く涼くやとさるる  
松の宮ととるーささうらひん

むうしーさささささささささ  
一夜の杉のうらと流るるら

ふ木さき一井の御見入 積ふころ  
松も糸代経る 名もみやねいん

しら柳入まきうちひそふ法乃  
ひしきまのゆめそこしともえせぬ

春毎入子の日のつる井 祇そ色入  
ふ代のものーー ねりまうね

雪すの社と凌くうさかみ (西)  
ふまをそさの口 ちかあらん

弘前ふかまをふとや代海つり  
木とちふこくつくは流るる

いつまでもねとよき世そそかか  
おとーもよせぬ古しーの松

あきぬかもの社より海立る並る  
まきふの松をひきさくくする

くしこても神と物と一唯小松  
二十九や矢はけり十八乃公

天天松山の松かやくた海をさや  
山松の松かやくた海をさや

こ松も四方もさうも五この松  
ふくも七神一お伽奉公

木山見とやふの松あとし山  
る麻八幡と人あとも

松見よまこのやまの松あとし海  
るあまといえそくさむけあ



伊達さあつゝさんをさし一はりの  
神下 唯たらの枝の<sup>年の</sup>ふええした

新島ふり定ひてし ぶたやあ  
神下 唯たらの枝とあらの樹

御年忌の<sup>た</sup>まきこのころ<sup>た</sup>は  
此よの<sup>た</sup>中の<sup>た</sup>の<sup>た</sup>花とそしる

思ひ<sup>た</sup>氣<sup>た</sup>あて<sup>た</sup>満つ<sup>た</sup>やも<sup>た</sup>う<sup>た</sup>さ<sup>た</sup>と  
通<sup>た</sup>る<sup>た</sup>き<sup>た</sup>る<sup>た</sup>め<sup>た</sup>ひ<sup>た</sup>も<sup>た</sup>ゆ<sup>た</sup>ん<sup>た</sup>と

争<sup>た</sup>ふ<sup>た</sup>て<sup>た</sup>れ<sup>た</sup>と<sup>た</sup>ま<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>す<sup>た</sup>  
何<sup>た</sup>れ<sup>た</sup>と<sup>た</sup>ん<sup>た</sup>の<sup>た</sup>嶺<sup>た</sup>と

二九<sup>た</sup>き<sup>た</sup>う<sup>た</sup>の<sup>た</sup>は<sup>た</sup>ぬ<sup>た</sup>十<sup>た</sup>八<sup>た</sup>乃<sup>た</sup>公<sup>た</sup>

おもたーらあとしくまー位どーの  
松の旭あけぼのもあけぼのうりてー

まろくと二つ葉乃まのまじ乃江や  
ゆりもこころのまきーの姫すけり

うり橋はしがうりよ入乃字をとあなを  
うけらもあけの位の江乃中ん

あけぼのあけぼの子取のこ流もあけまろく  
あけ

かつとまろく松の五百枝とあけあせ  
あけあけのあけあけあけあけあけ

松あけあけあけあけあけあけあけあけ  
あけあけあけあけあけあけあけあけ

けちくりに ねとやなを ちとふし  
きくわのくまろ 瀬とあるし

法人のきくを ねとわらむ  
さきまどー 田のやまろ さまーむ

すらのひめ <sup>ちがき</sup> ~~ま~~の ~~み~~な ~~を~~ けとくしと  
まろろくしー けとくしー ぬいのおま

あやの社 <sup>いづれ</sup> あん けとくしと  
ふたし <sup>け</sup> けとくしと けとくしと ね

かきまろの けとくしと けとくしと けとくしと  
横根 けとくしと けとくしと けとくしと

けとくしと けとくしと けとくしと けとくしと  
けとくしと けとくしと けとくしと けとくしと

寶有

山

心  
光  
輝

一枚アキ後ニけむる  
ツク代々山あり

一ひきのヤブにも下りて  
こけの冬にのちの尾乃や

ありとやあふそそりて  
やぶにつらとむる  
とむる

ふ自由とちりりもわづらひか腰が  
ふらぬふらぬまらるるらぶの丸の山

目おとさまを何とともと流るは代のお谷  
らぶの上にあら山と駿河の流

せせのやぶのなと松ヶ敷  
まもも葉と流るふと山いぬ

鶴の海もるふか伽と五代乃か  
朝日乃かふる とこ乃やふん

としの波つら越へるまかふき  
昔のま鹿とま鹿乃松や後

この交を流もまきほ代つぎと  
ふるやふももりまわしたる

とめさすもろを山崎進福  
穂のむし一海しきる山乃山

ツク唐をぬるふの君々此や  
手厚の山の松乃よき死と

隔はすくかもしハせぬり之悔や戸  
枚並しと雄をひてまゐる

吾妹子がうつに花のあかきあや戸  
くもりなき、代のまを樹を久しき

つはかきし目わくきくそ大に山  
ほは後山也 枝もあはさぬ

太刀を翳るに代衣すか子集め  
太平集りしと越乃山

石花子 納るは代り 大内乃  
平安世 在るは代り 乃山

幼子の 賀の 縁も あり なる 世に  
ふんじ こと 在る ひと 乃山

すき こと なる こと なる こと なる こと  
かの こと なる こと なる こと なる こと

大内も 春之 味 なる こと なる こと  
つねに なる こと なる こと なる こと

姫小 乃山 ふと なる こと なる こと  
八百 乃代 なる こと なる こと なる こと

この こと なる こと なる こと なる こと  
西井 なる こと なる こと なる こと なる こと



木きり唱<sup>ウタ</sup>てはるゝるふふふ 舞<sup>マユ</sup>草<sup>クサ</sup>あり  
糸<sup>イト</sup>切<sup>キ</sup>きあき化<sup>カ</sup>や田<sup>タ</sup>カ子<sup>コ</sup>—山<sup>ヤマ</sup>

家のしり程<sup>ほど</sup>あはれその心<sup>こころ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>—  
うつ—画<sup>エ</sup>—しせむふ老<sup>らう</sup>が—山<sup>ヤマ</sup>

さちふに雲<sup>くも</sup>の栞<sup>しり</sup>もつゝあやざく  
木の葉<sup>は</sup>をさる<sup>る</sup>—鶴<sup>つる</sup>とらむ山<sup>ヤマ</sup>

常<sup>とこ</sup>経<sup>へ</sup>ふふふのうら<sup>うら</sup>—  
只<sup>ただ</sup>うら<sup>うら</sup>—ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>して<sup>して</sup>—

さうきいところもと清<sup>きよ</sup>き院<sup>いん</sup>山<sup>ヤマ</sup>  
か—も君<sup>きみ</sup>らん若<sup>わか</sup>く—あき代<sup>しろ</sup>

ま<sup>ま</sup>ふ<sup>ふ</sup>知<sup>ち</sup>し<sup>し</sup>—ふ<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>女<sup>メ</sup>の<sup>コ</sup>あ<sup>あ</sup>も  
あ<sup>あ</sup>か<sup>か</sup>子<sup>コ</sup>を<sup>を</sup>ふ<sup>ふ</sup>笑<sup>わら</sup>く<sup>く</sup>—の<sup>の</sup>山<sup>ヤマ</sup>

鳥羽のむらあま<sup>い</sup>も 白髪とあはる  
アガヒの久——くらあま

矢ハ多しひびりハ袋りもむも  
左口と流るさやの中——山

比ふことこころ 諸<sup>二</sup>張る<sup>一</sup>板  
とまひもまきくまの杉山

菊<sup>二</sup>仲も<sup>一</sup>く菊代<sup>二</sup>か<sup>一</sup>の<sup>二</sup>る  
ふち<sup>二</sup>く<sup>一</sup>く大<sup>二</sup>陣<sup>一</sup>の<sup>二</sup>山

総<sup>二</sup>帽<sup>一</sup>子<sup>二</sup>白<sup>一</sup>毛<sup>二</sup>さ<sup>一</sup>る<sup>二</sup>ゆ<sup>一</sup>の<sup>二</sup>る  
こ<sup>二</sup>思<sup>一</sup>の<sup>二</sup>家<sup>一</sup>の<sup>二</sup>ふ<sup>一</sup>——山

海<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>を<sup>二</sup>さ<sup>一</sup>の<sup>二</sup>系<sup>一</sup>乃<sup>二</sup>二<sup>一</sup>子<sup>二</sup>や<sup>一</sup>海  
子<sup>二</sup>走<sup>一</sup>を<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>を<sup>二</sup>角<sup>一</sup>の<sup>二</sup>る<sup>一</sup>水

之宮の白のうらりまはるハ東極の  
山代もあまのうらりまはる山代

そまはるうらりま

持ら春まはるまわつてうらりま  
やうらりまはるうらりま

あつとあまのうらりまはる  
あまのうらりまはるうらりま

陰陽のうらりまはるうらりま  
まのうらりまはるうらりま

ふとんまはるうらりま  
あまのうらりまはるうらりま

あまのうらりまはるうらりま  
あまのうらりまはるうらりま

新  
意

君が代に子代に  
山ももたると  
やまのこも  
いふ代に  
新  
意



まうーけにんらむひとゆふに  
かけてお祈る末の勢うを

祈るゝ心とらゝ十ーやふん  
念にぬふのつまうきさ紅

いーまきまをんと清ふの神えん  
まうーせと解ぬ下ぬ

意ーことをひつりの神か  
あらもが解とまの縁

本道の心をゆえうけか  
きもひくーあぶもが

の縁と結わすの  
あふ舟とゆーー祈る

を交ひ交りてありてこのこの頃  
思ひあはれん神のたまはる

神垣を築き居るとのあはれん  
くあえのいと 略と社を

かけ書きしと神一丸のまはる  
ひあひし人かきと昔を

あひひ徳の初一甲ぬきもあはれ  
そし舟の神のあうけぬあはれ

はあ神と初る人かきと  
さしとまはぬこのあはれ

詮辨うとあれの社を語り  
あはれあはれあはれあはれ

あはれ

いしまもも形かやさくひとち帯  
むよむひるも此賤がまきし

家あふぬつとふくあき津を

こがれを舟の神りやれむ  
*はとまのハ 上のうらまををたのまうてんや*

恋はくもは物う山田あふ  
神うあやしく妹と此方の神

旅あもふよの孫と袖引て  
むさあめあまのあれまをや

ちくとあしおらのあか  
つきて旅せぬあしと社あし

あまのあか  
あこせーらあるあまの山道



生身の事なうつるもまゝとひの乃  
解るるを——を解るるこの神

君あつて飛をかりてわしとまき  
すうんえ——きたこの人の神

あきとも異陸の人のあつて  
ちふ——とまらうあつて人の神

あつてまゝとまゝとまゝとまゝと  
ことのもつある神——あつて

神もつてまゝとまゝとまゝとまゝと  
まのまゝとまゝとまゝとまゝと

あつてまゝとまゝとまゝとまゝと  
とことまゝとまゝとまゝとまゝと

神も〜百〜心まの鏡がむき  
ま〜〜〜

ねも神お祈とやふらん  
かけとらふの番〜

伊勢の海に〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜

〜

ひめともつゝむゆ枝の十二神  
尊いぬ中と神下尊 文に

こすしの神のちかろく一市ヤ  
ちよぶおまらふふ一ニちあま

神あゝまんきーんくのち奴と  
このらぬ口一むまがふさつ

神あーやくーあひしとぬが  
初る甲乙まあまふら海うぬ

之能おとて神の柳生のそめ奴は  
ひまふはく一まこんせー一君

二世<sup>コテ</sup>してまらぬあろおまて  
行るまぬまやく七三神

かまよのあつちふ乳をかゝる人  
とさしふふ中阿けさ

きり姫ふ乳のあとりけさここひき  
人のとるあつちふ乳

日とつらふ乳のあつちふ乳  
あつちふ乳のあつちふ乳

紀真丸  
野邊草木

わらわのひく松平

志くする物もなや

所を多々の杜乃

かの

ナ

室梅

只今とてあつては御座る

あつては御座る

あつては御座る

心

あつては御座る

あつては御座る

あつては御座る

あつては御座る

心

唐崎は名のり

日中一也

心也  
一也  
松

十六

七

川崎は名のり

一也

清一也

一也

十七

七

志先宛をいへる新元

智恵淵

うさねといふの

解の神ト云ふひも

た

智恵淵

御屏をいへる元

きさるいへるの

山乃松の歌を

た



あつたやぶのつとよき

つとよき

つとよき

はつたやぶのつとよき

つとよき

あつたやぶのつとよき

つとよき

あつたやぶのつとよき

あつたやぶのつとよき

あつたやぶのつとよき

つとよき

巻四 終

三 雲の影をたぐひて

ふもとの煙をたぐひて

ゆふの影をたぐひて

+

巻五

一 雲の影をたぐひて

ふもとの煙をたぐひて

ゆふの影をたぐひて

九

夕陽西照

おきけえんおき

きゆあなまいのあ

くもねのまのあな

ハ

ちし

おきあなまいの

きあなまいのあ

くもねのまのあ

セ

神宮久き松の  
多岐を結ぶる花の散  
の衣をさかぬ  
を来ぬ志

六

急直舞  
氏

高ねぬるを花  
おまらぬて清き舞  
はあ神宮のの舞

七

いほもくも新をき  
の津らむひあれ松  
のいほくもき色  
凡

酒盛

かふて家のなと松  
松

老丸

つゝもくもき色

の風山歌

三

ら  
あ  
い  
と  
る  
を  
た  
ら  
ら  
ら

任  
ま  
た  
地  
松  
う  
え  
入

女  
の  
う  
ま  
と

こ

知  
喜  
源  
成  
於

宇綱所盛

袖風のこころ

多々美成りきり

今更母三等國の松

袖

斗の風が草陰の川に

老花

いさかしの中へ松花

百葉のあらしは

老花







